

シンポジウム2 セブンスミッター医療関係者は語る

酸素ボンベに命を託して
～素人登山家から見たエベレスト登山の現実～

篠崎純一
アルプスベルクリニック院長（産婦人科医）



七大陸最高峰の中で、アジア大陸最高峰エベレストは、その標高が他を圧してずば抜けて高い。事実上酸素ボンベを使用せず頂上に至るのは至難の技だ。そのため他の山と比べても特別な装備と時間、更にはかなりの高額な費用が必要とされる。色々な意味でエベレスト登山は、社会的に恵まれた登山家のみ許される特殊な登山と言えるだろう。

しかしその一方酸素を適切に使用すれば、優秀なシェルパの力を借りる事で、天候次第でそれほど困難なく頂上まで至れるのも事実だ。多くの場合頂上までしっかりと固定ロープが張られているので、技術的困難さも問題にはならない。

今やエベレストは屈強な登山家のみ登頂が許されるといった山では無い。既に完成の域に達しているエベレスト登頂ビジネスを上手に利用すれば、一般のアマチュア登山家でも十分頂上まで至れるチャンスがある。



とはいえ現実には標高 8000m を越えたデスゾーンにおいて、毎年遭難者は後を絶たない。その原因の多くは酸素不足から来る高山病だ。天候さえ上手く掴む事が出来たら、後は酸素ボンベとマスクのマネジメントが、エベレストおける登頂と生死の鍵を握る。

つまり頂上を巡る数日間の酸素マネジメントのために、多くの時間と費用をかけて前からしっかりと準備しておかなければならない。それがエベレスト登山の現実だと僕は思う。

世界最高峰と言う誰もが分かり易い魅力に引き込まれ、毎年何百人もの登山家がエベレスト頂上を目指している。かく言う僕もその一人だ。そしてデスゾーンを越える世界で、様々な幸運に助けられ、特殊な世界の経験を思う存分に楽しむ事が出来た。

僕は今まで酸素を使用した経験はエベレスト登山における一度しかない。しかも標高7100mから上にいた数日間だけの事だ。それだけで僕の酸素経験を語るのは余りにおこがましいと思う。

しかし日本に数人しかみえない特別な高所プロガイドの方を除き、酸素を使って登山する事に普段から慣れている人の方がきっと珍しい。

僕は医療関係者と言っても特別な生理学的知識を持っている訳では無いので、せめて自分の僅かな酸素経験の中から興味深いエピソードを中心に今回お話ししたいと思います。

次いで、僕のような素人登山家が如何にして七大陸最高峰頂上に至ったか？ そのプロセスを自分の生き様を交えつつ、時間の許す限り語らせていただこうと思います。



連絡先：抄録集に掲載